

2014年10月31日

沖縄県には国内外から多数の観光客が訪れ(658万人/2013年度)、観光産業は本県のみならずわが国の成長戦略の大きな柱である。外国からの内訳を見ると、中国、韓国および台湾からの客が大多数を占めている。ここで、他の諸国から観光客を誘致する方法を論じたい。県民のみならず、日本国民の英語教育、そして国際化にも繋がる提案である。

去る10月15、18日に大連(中国)で「藻類」に関する国際会議が開催され、「オキナワモスク由来フコイダンの化学構造と生理活性」の演題



田幸 正邦

論壇

で招待講演を行った。4年前にも同会議で招待講演を行った経験がある。会議の後、北京を訪れ中国が国際化を国策として推進している様子を見学した。地下鉄(1番線)の間見た。

日本語と英語の併記表示

国際化・観光立県に必須

ホームに立った時、ケンブリッジ大学(英国)への留学の奨励の広告(電光写真板)が目に残っていた。その瞬間、9月1、6日にケンブリッジ大学・クイーンズカレッジで開催された国際会議に参加した(演題・ベートーヴェンは

国で学ぶ意欲を失いつつあることを示している。その証拠に、日本から海外に留学した学生は約6万人(11年)で減少の一途をたどり、中国から海外に留学したのは約42万人で、逆に増大しつつある。

沖縄県のみならずわが国のほとんどの建物の組織の表札、標識、都道府県名、市町村名や地名などは日本語で表示されている。ここで、英語を併記する事を提案したい。現状は、わが国が中国、韓国および台湾の文化圏内に満足している印象を諸外国の国民に与えている。

中国は、すでに漢字と英語を併記して国際化を實踐し、その成果は前述の学生の留学

数に加えて、この数年の外国人観光客数にも反映されている(5600万人・世界第3位)。それに比較して、わが国に来る外国人は1千万人を突破したところ(13年)で第27位である。英語を併記することによって、外国人が日本の文化および歴史を深く理解するようになり、親近感を覚えるようになる。

また、子どもたちの英語教育にも大きく寄与する。英語教育を生活環境の中に根を張ったものになければ、国民の国際化はますます遠のくばかりである。

(琉球大学名誉教授、健康長寿科学研究所長、67歳)